

もり森林の話

第24話
空知森林管理署
井口 真緒

若手職員のコーナーです。

入庁し、空知森林管理署に来てから早くも2年が経とうとしています。森林管理署の業務内容はとても幅広く、OJTなどで学ぶ自分の担当以外の業務は、全く別の仕事に感じます。

1年目は「森林ふれあい」、今年からは「土木」を担当しています。今回は、それぞれの業務で感じたことや学んだことについて触れたいと思います。

【森林ふれあい担当】

空知森林管理署の森林ふれあい担当は、森林教室の運営などのほか、国有林の入林の手続きや狩猟関係の業務をしています。一般の方と接する機会が多く、緊張していても丁寧で分かりやすい対応ができるよう心がけています。そんな、ふれあい担当の業務のなかで印象的だったのは、狩猟関係の業務です。主に、可猟区の設定や市町村・猟友会と連携してエゾシカを捕獲する捕獲連携事業の調整をしています。

各方面と調整や打ち合わせ



令和3年度合同狩猟
パトロールの様子

せをするなかで、「趣味としての狩猟者」とエゾシカの頭数調整をしたい「市町村」、安全確保のため慎重にならざるを得ない「現場責任者」といった狩猟に対する思いの違いが見えてきました。

私自身、大学で野生動物について研究してきたので頭数管理の重要性は分かりますが、現場責任者が求める安全確保との両立はなかなか難しい課題で、猟友会や市町村などの関係機関との信頼関係の構築が不可欠だと思いました。また、「現場責任者」の視点は、学生の時には見えなかった視点だったので、新鮮さとともに、関係者全員が納得する中間点を探す難し

さを感じました。どのような業務でも様々な角度の視点が必要だと思うので、広い視野を忘れず業務にあたりたいです。

【土木担当】

土木担当は林道の管理、測量や工事の発注・監督等をしています。林道や森林土木の知識が無く、道は斜面を切り拓いて平らにしたもの程度の認識しかなかった私にとって、道路にも構造があり、排水施設や擁壁など様々な工法が駆使されているという根本的なことも、驚きでした。

林道の開設や維持・修繕には時間とお金がかかり、特に開設や改良は、測量・設計をして着工するため、2年以上かかります。そのため、経営担当や治山担当など他担当との連携が大切で、事前に保安林協議を行い、伐採等の事業のタイミングに合わせて工事を実施します。担当ごとに全く別の仕事をしているようでも、どこかで関連していると実感しました。自分の

仕事の前後のつながりはまだ見えないところもありますが、他の業務との関連を意識しながら業務を行っていきたいと思います。



新設工事の
排水施設

【最後に】

一緒に現場に出ている、人によって森林の見方は違います。胸高直径や樹高など木材資源としての状況や、木に巻きつく蔓や木の混み具合など保育作業からの視点、木の根元の曲がり具合から斜面の滑りやすさを見るなど様々です。

樹種の判別にも一苦労していますが、着実に業務経験を積み、幅広い知識を身につけていきたいです。